

労働の科学



巻頭言

俯瞰 (ふかん)

何かあっても安心して働ける職場づくり

櫻井 公恵 [株式会社櫻井謙二商店]

1

表紙：「Animal life No.8」 深沢 軍治
板に油彩，53×45.5cm(10号F)，2018年
表紙デザイン：大西 文子



治療しながら安心して働ける 職場づくり

治療と仕事の両立支援の現状と課題

[北里大学医学部] 江口 尚 4

病気の治療と仕事の両立に関する 企業実態調査から見える両立支援の課題

[独立行政法人労働政策研究・研修機構] 郡司 正人 10

中小企業が「がん罹患社員用就業規則」を定める意義

[鳥飼総合法律事務所] 小島 健一 16

両立支援を支える企業外労働衛生機関の役割と取り組み

[一般財団法人京都工場保健会] 森口 次郎 20

医療機関で実践する両立支援

医療機関の現場から企業側へ知っていただきたいこと

[九州労災病院 治療就労両立支援センター] 橘 智弘 25

両立を可能にする「お互いさま」の職場風土づくり

一人ひとりに合わせた支援を

[一般社団法人 CSRプロジェクト] 藤田 久子 30

健康管理と仕事の両立を職場と地域で支える

効果的な支援ネットワークとの連携とツールの活用

[東京医療保健大学看護学部] 伊藤 美千代 35

Graphic

ディーセント・ワークを目指す職場 6 [見る・活動] (101) 越谷市消防本部 越谷市消防署谷中分署	口絵
--	----

Series

産業保健の仕事に携わって (11) 国際がん研究機関・労災相談・定年退職	熊谷 信二 40
凡夫の安全衛生記 (30) 「合理的な考え方にひかれて」エルゴノミクス	福成 雄三 46
時評：労働科学 最近の高齢者の交通事故を考える	岸田 孝弥 48
労研アーカイブを読む (43) スキャフォールディング (足場づくり) による問題解決	椎名 和仁 51
にっぽん仕事唄考 (69) 炭鉱仕事が生んだ唄たち (その69) 釧路炭田と「うたごえ運動」③	前田 和男 60

Column

2018年度人類働態学会夏季研究会ブラッシュアップ講座 より健康的で「人間らしい」生活のために 誰もが取り組む働く環境の改善	村野 良太 54
Information.....	56
BOOKS	
『増補新訂 医療機関における産業保健活動ハンドブック』 「働き方改革の時代」における医療現場で役立つ実践書	鈴木 幸雄 57
『写真記録・三島由紀夫が書かなかった 近江絹糸人権争議 絹とクミアイ』 蘇える未だ過ぎ去っていない近江絹糸的コミュニケーション	奥井 禮喜 58
『企業ファースト化する日本 虚妄の「働き方改革」を問う』 本当の働き方改革のために大切なこと	山岸 薫 59
次号予定・編集雑記	64

何かあっても安心して働ける職場づくり

櫻井 公恵

先般より働き方改革が大きく取り上げられ、病気の治療と仕事の両立についても広く対策が求められています。「治療と仕事の両立支援プラン」となると何となく高いハードルに思え具体的な対応策に悩みますが、私どものような小さい会社ではまずできることから積み上げていくことが有効です。

弊社は社員数35名、パート・アルバイトを含めても47名の中小企業であり、産業界や産業看護職はおりません。社員のなかにはがんの経験者だけでなく、さまざまな病気を経験している社員や障がいを持つ社員もいます。中小企業ではひとりの力が大きな戦力。私たちは、本人やその家族の病気や怪我、あるいは介護だつたりとさまざまなステージに直面するつど、皆でどのように工夫して業務を遂行していくか、共に話し合い実践していきます。

病気を受け止めたその次には、治療と仕事とをどのように折り合いをつけていきたいのか、そのつど話し合いながら道を探していきます。受け止め方、考え方や事情もひとりひとり違いますし、変化もしていきます。それぞれの生き方に添いつつ材料を組み合わせていきます。

材料はどこにでもあります。検査や入院でお休みが必要なきはまず有給休暇、これは通院に合わせて時間単位で取

得できるようにしています。休職が必要なら傷病手当金でサポートできます。治療費が高額になりそうなきは高額療養費制度、復職のときに必要であればリハビリ（短時間勤務、元氣だつたときと働き方を変えたいときは勤務体系の見直し、職種の変更、いざというときに備えるための有給休暇の積立制度。前例がないことも「やってみようよ」とチャレンジし材料を作っていきます。

がんは未だ全てが命に関わるたいへんな病気だという間違つた認識もありますので「仕事どころではない。治療に専念したい」と考える気持ちもよくわかります。でもあわてて退職してしまつたら、せっかく利用できる傷病手当金などのサポートも受けられず大切な社員の不利益になります。社会にあるサポート、自社でできるサポートを理解し、安心して治療を受けてもらうためには、このようないくつかの材料を整理しておく、がんに限らずいざというときにとても有効です。そして会社は大切な人材を失わずに済みます。こうした会社の対応は共に働く全ての社員が見ています。何かあつても相談しながら働き続けることができるという安心感はこちらから生まれ育まれていくのだと思います。

一方、その期間を支える社員に不公平感が生まれないう配慮することも大切



さくらいきみえ
株式会社櫻井謙二商店代表取締役社長
平成26年厚生労働省健康局「がん患者・経験者の就労支援のあり方に関する検討会」構成員

です。不公平感はモチベーションの低下だけでなく、肝心の治療中の社員の「申し訳ない」という思いを大きくし居辛くさせてしまいます。任された社員に業務の変更があつた場合は職務手当を変更する、必要であればパートの雇用をする、自らサポートにまわる、こうした対応はとても大切です。

この5月に国立がん研究センターで「がんにかかつても安心して働ける職場づくりガイドブック」がまとめられました。私たち企業関係者も参加して作りあげたガイドです。大企業、中小企業それぞれの多くの事例が取り上げられていますので材料の宝庫です。ダウンロードも可能ですのでぜひ参考にしてください。
https://special.nikkei.jp.co.jp/atc/h/work_with_cancer/
(がんと共に働く・知る・伝える・動き出す)

